HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学農学部学生運動史
Author(s)	藤原, 一暢
Citation	北海道大学大学文書館年報, 4, 50-55
Issue Date	2009-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/43375
Type	other
File Information	4_50-55.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

＜ 研究ノート ＞

北海道大学農学部学生運動史

藤原　一暢

はじめに

〔１〕テーマ決定のきっかけ

僕は「北海道大学の歴史」の講義でキャンパスや建物、過去の卒業生、女性の立場等について様々な事を学ぶことが出来た。僕は日本史を途中までしか高校の授業で受けておらず、北大設立のころである近代史についてはあまり勉強していなかった。そして僕の高校が安保闘争で被害にあったということで、安保闘争がどういうものか興味を持っていた。また、大学に入学し、他の学部の自治会が活動していないにも拘らず、僕の学部の自治会が活動をしているのを見て、漠然とこの活動をいつからやっているのだろう…安保闘争から、それともずっと前…？と疑問を持った。レポートのテーマを探していた時にこの２つの事が思い浮かび、農学部（特に自治会）と学生運動をレポートの題材にしてみようと思い、「学生運動と農学部」と主題を決め、レポート作成を行った。

〔２〕調査内容と自分の意見、考察

まず初めに、調査内容では文献の表現をなるべく使いつつ、調査した内容を要約し、資料筆者の意見をなるべく除き、明らかな誤植は修正してある。調査内容は一字分下げてある。

１．戦前の北大における学生運動

1918年、東京大学に結成された新人会は学生の社会科学研究・左翼運動のさきがけになった。1919年秋には北大にも新人会を名乗るグループが農業経済学科内に結成され、５、６名の学生が参加したと、大学側の記録に残っている。1924年に全国組織として学生社会連合会が誕生し、９月の東京での大会に北大は参加・正式加入した。大学側の記録によると、このときの北大社会科学研究会は農業経済学科の学生によって組織され、関係教官の名も示されている。ただし関係は薄かったともされている。社研のメンバーは、軍事教練反対運動、治安維持法反対運動などに参加し、学外では労働組合結成を助けている。1926年、社会科学研究会関係者の全国での一斉検挙が行われ、北大でも４月２日、農業経済学科の新卒業生や学生、昆虫学教室の学生が秘密出版物発行を理由に検挙された。

調査内容から分かる通り社会科学運動は東大から始まり、全国で広く行われていたと考えられ、北大も例外ではなかったようである。この頃は農業経済学科が全国大会に参加している等、学内でも特に活発に学生運動を行った集団であったと推測できる。逮捕者が出ていた点からも活発に活動をしていたことを裏付けている。ちなみにこの頃、他学部ではそれほど活発な運動の記述はあまりない。

2．戦後～1956年までについて

①戦後の農学部自治会のおこり

1948年時点では他学部にはあるにも拘わらず、農学部には自治会は存在してはいないが、設立の動きが農学、農経両科にあり、準備会が発足し、同年６月23日に選挙が行われ、農学部自治会が成立、24日に北大学生会に正式加入している。しかし、翌年の11月にも新発足している。

この内容からは戦後農学部での学生運動は不活発になり、自治会自体も多数の学科によって別個に作られていることを示すものであり、1949年に新発足していることから自治会は成立と解散を繰り返していたと考えられる。このため以降の調査内容では「～年の自治会」と書く場合がある。

②イールズ事件との関連

1950年の自治会では会議を教授たちと意見交換をしながら行うため、学生教授間のトラブルは少ないとされていた。また、同年イールズ事件に関連して農学部自治会の代表等が処分者として挙げられ、他学部同様農学部自治会もイールズ博士に対する批判の自由を要求しており、学問、思想の自由のために戦おう、という路線で具体的に行動しようとしていた。そして、この事件の際に北大全学生協議会は解散しているが、それに代わる北大学生自治連合会が同年11月頃に新発し農学部も参加している。

そもそもイールズ事件とはGHQ民間情報教育局教育顧問W.C.イールズが北大での講演で共産主義的な思想を持つ教授の追放を唱えたことが原因となった事件である。個人的にはこれが戦後最初の大規模な学生運動と言い得る気がする。農学部自治会は他学部と同様イールズ事件に対して批判的な態度で活動をしていた。

③破防法との関連

1952年、学生達は破防法撤回運動として５月20日に全市デモを行い、これには他学部同様、農学部自治会も参加している。また６月17日にもストライキや同法についての抗議デモを行っている。

破防法（破壊活動防止法）は第１条に目的が記されており、「この法律は、団体の活動として暴力主義的破壊活動を行つた団体に対する必要な規制措置を定めるとともに、暴力主義的破壊活動に関する刑罰規定を補整し、もつて、公共の安全の確保に寄与することを目的とする。」とされている。言論、出版、集会、結社の自由を侵害するものと現在でも批判があるものである。このため農学部自治会は様々な活動をしていたであろう。これ以降５年間に藤井事件、原水爆禁止運動等があったが他の学部が活動に参加する中、農学部自治会が参加していたという記述は見つからなかった。

３．1957年～1970年について

①自治会の再結成

1957年11月１日の全学集会で学生部委員会が届出の約束に反したことにより理系学部で自治会結成の動きがあり、農学部でも例外ではなかった。更に1963年３月にも自治会結成の動きが起こっている。この時には農学部学生委員会と1962年に結成した農業経済学科の学友会により別々に起こそうとしたもので、対立も起こっていた。しかし、1965年６月では農学部の公認団体は農経学科学友会のみであるとされ、この状態は1966年１月時点でも続いていた。その間、日韓条約批准阻止農学部実行委員会などが自治会再建を目指している。1969年になると農学部自治会は結成されており、民青系が辛勝して執行委員長になっており、同年11月の選挙では農反戦・農スト共闘が民青系を下している。

このことは、２－①の意見、考察でも書いた通りである。また、1952年には２－③で記述した様に農学部自治会が存在していることから、1952～1957年の間に自治会が最低一度解散したことは事実であろう。しかし、1957年、1963年の動きについては動きがあったというのみで結成したという資料を見つけることが出来なかったので、確かな事は分からないが、農学部学生委員会は解散していたようである。その後、1966～1969年の間に自治会は最低一度は結成されたようである。２－①と結成・解散の頻度はさほど変わらないように思う。

②活発な活動

1969年大管法の施行と８月17日の教養部の授業再開に対して文系４学部が封鎖されるという事態が起こった。このため、工・理・農学部の３つの本館には投石、火炎瓶、封鎖から守るため金網とバリケードが築かれた。また、主に民青系の学生の指導で泊り込み態勢を強化させ、自主防衛の構えを取っていた。そして８月17日の教養部２年の授業再開が延期され、１ヵ月後の９月17日に強行に再開された。当局と民青系の学生が農学部の教室を借りることを企てたが、農学部長は農学部教授会での決定がない限り農学部

の教室は貸さない等の確認書を北大全共闘との間で署名し、農学部での授業は不可能になった。

大管法とは「大学の運営に関する臨時措置法」の略である。この一連の行動に関して上の３－①より民青系の学生が農学部自治会の主導権を握っていたことから、農学部自治会の学生が参加していた可能性はあるが農学部自治会としての活動ではなかったようである。基本的に北大の学生運動の中心は教養部であった。農学部長は教養部学生に余計な火種を農学部に蒔いて欲しくなかったのではないかと思う。しかし、８月17日の授業再開に対して４学部が封鎖された理由が資料を読んでいて分からなかった。教養部の授業をそれぞれの学部の建物で行って欲しくなかったからであろうか。次は1970年の活発な活動である。

1970年の４・28沖縄デーの集会として農・工・獣医の３自治会、他教養のベ平連、教養部スト実によって構成される統一機関北大全闘委と他７大学のベ平連が集まり、全市デモを行った。また同年５月以降この３自治会は長沼ミサイル基地闘争（以下長沼闘争）を核としてクラーク会館前で、他多くの団体と共に別個で集会を行い、街頭デモを行うところもあり、６月21～23日には連続闘争が起こった。21日にはベ平連側が大統一行動を呼びかけていた３自治会は安保闘争からの闘争を非難され、一方的に決別された。それを受けて22、23日にはベ平連とは別に３自治会が別個に集会を行った。しかし、大統一行動自体はベ平連側も行っている。

ベ平連とは「ベトナムに平和を！市民連合」の略である。長沼闘争については長沼の保安林についての主張がなされているため、保安林を守ろうという口実で集会を行っているのが普通と思うが、保安林への農学部なりのこだわりがあったのかも知れない。大統一行動自体は、ベ平連も行っているという記述があるので決別については理由になっていない気がする。一方的な決別であったため、別に理由があったのではないかと思うが、参考になる情報が他に無かったのでここまでしか推測できない。また参考にした文献（北海道大学新聞）には安保闘争での３自治会の記述は殆ど見られなかった。単にあまり記事にしなったのか、本当にあまり参加していなかったのかは分からないが、安保闘争中は民青系や革マル系といった系別で参加していた傾向があるので自治会での参加は少なかったと思う。

４．1971年から収束と思われる時期まで

①沖縄返還協定に関連して

1971年に国際反戦デーの10月21日、明確に沖縄“返還”協定批准阻止をスローガンとした活動が札幌で行われていた。各学部でスト態勢を構築する中、農学部は自治会（民青

系）の情宣にも関わらず、スト成立のメドが付かず、21日当日はクラス別ストを行うにとどまった。その後も沖縄協定“採決”糾弾に決起した沖縄批准阻止運動として各学部バリストが成立する中、30日にはストライキが行われた。

沖縄返還協定に関する運動では農学部内の学生で対立、或いは無関心があったのかも知れない。各学部のストに拘らず、農学部は全体でのストは行われていない。また農学部でバリストが行われたという記述は無い。このことが「学生運動の収束」として良いと思った理由である。

②学生運動の収束

沖縄返還協定に関する運動後、農学部長沼闘争委・長沼反対闘争・北海道訪中実行委の３者による集会、評議会阻止闘争に農学部自治会は参加しているが、この頃から学生運動自体が極端に減り、学生運動があったとしても農学部はいずれにも参加したという記述は無い。そして1969年以来行われていなかった入学式が1976年に厳戒態勢の中ながらも復活した。これは学内治安の確立と闘争の後退だとされている。また、1978年の北海道大学編集部年末放談でも入学時点から自治会に関して無関心である生徒がとても多いと語っている。

関連性がなかったためこれまで書いてこなかったが、『北海道大学新聞』中に度々、学生の無関心について書かれていた（個人的には充分活発だとは思ったが…）。しかし、1973年頃まで必ずと言って良いほど学生運動の記事があったにも拘らず翌年からは突然、学生運動の記事が少なくなったことには驚いた。安保闘争自体も終了していた事からも言えるかも知れない。最後の記述を見た後も学生運動自体は少しあったが社会の事件に関連したものは少なく、農学部に関する記述は1980年の年末まで見当たらなかったため、ここで調査を終了した。

最後に

今回のレポートは主題決定以後の調査が大変であり、個人的には不完全な結果となったことが否めません。主題決定は講義の２週間後でした。この時は『北大百年史』と北大の関連の本を読めば情報は手に入ると考えていましたが、戦後以降については殆ど見つからず困りました。そのため、北方資料室に出向き職員の方に伺った所、『北海道大学新聞』が良いのでは、との事で終戦後の1947年頃から読み進めました。戦後やそれ以降10年位までのものは文語調に近く、字も小さく、古いためか印刷も悪かったのでとても読みづらく、時間が掛かりました。また月２回の出版であり、1947～1980年までのものを読んだため、膨大な号数を読むことになり読み終えたのは８月に入ってからでした。そして読み終えて

得た知識を使い、別の文献を見つけましたがそれは教育学部の図書館の引越しの都合で借りることが出来ず、戦後の情報元が１つになってしまった点で不完全なものになってしまった気がします。しかし講義の内容だけでなく、自らが興味を持ち、調査した内容からも自らの「つながり」を時間の流れを捉えられた点では授業目標に沿った意欲的な学習が出来たと思います。

〔参考文献〕

１．『北大百年史　通説』、249～251、328頁（1982年）
２－①．『北海道大学新聞』第三巻（大空社、1989年発行・復刻版）
第320号（1948年５月11日）347頁、第322号（1948年７月７日）322頁、第337号（1949年12月６日）375頁
２－②．『北海道大学新聞』第四巻（大空社、1989年発行・復刻版）
第340号（1950年４月24日）５頁、第344号（1950年７月５日）13頁、第349号（1950年11月８日）23頁
２－③．⑴『北海道大学新聞』第四巻（大空社、1989年発行・復刻版）
第370号（1952年６月８日）67頁、第371号（1952年６月22日）69頁
⑵「総務省法令データ提供システム」破壊活動防止法ＨＰ
URL：http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S27/S27HO240.html
３－①．⑴『北海道大学新聞』第四巻（大空社、1989年発行・復刻版）
第432号（1957年11月20日）223頁
⑵ 北海道大学新聞会『北海道大学新聞』
第509号（1963年３月25日）、第550号（1965年６月10日）、第556号（1965年10月25日）、第636号（1969年７月１日）、第645号（1969年12月１日）
３－②．北海道大学新聞会『北海道大学新聞』
第639号（1969年９月１日）、第641号（1969年10月１日）、第654号（1970年５月１日）、第658号（1970年６月15日）、第659号（1970年７月１日）
４－①．北海道大学新聞会『北海道大学新聞』
第688号（1971年11月１日）、第690号（1971年12月１日）
４－②．北海道大学新聞会『北海道大学新聞』
第693号（1972年２月１日）、第758号（1976年５月15日）、第781号（1978年12月15日）

（ふじわら　かずのぶ／北海道大学農学部１年）